

## 1. 現状と課題

### 【地域・水産業の現状】

- 寿都町は北海道南西部、函館と小樽を結ぶ海岸線のほぼ中央に位置する**漁業を中心に発展した港町**。第3種漁港である寿都漁港のほか、6つの第1種漁港を有する。
- ホッケ**の水揚げが全体の約65%を占めるほか、**ナマコやホタテ**など様々な魚種が水揚げされる。また、春が旬の「**寿かき**」など**高付加価値海産物も多い**。
- 住民一人当たりの所得は全国平均を上回っているが、その内訳をみると、**其他所得（利子や配当、交付税、補助金等の雇用者所得以外の所得）**が多く、一人当たり雇用者所得は全国平均と同種地域平均を大きく下回っている。
- GDPとはほぼ同規模の所得が域外に流出しており、**海業関連産業では、小売業や卸売業の流出が大きく、全体では保健衛生・社会事業（医療・福祉等）の流出が大きい**。
- 域内の取引構造を見ると、水産業と食料品製造業の取引は多いが、**水産業と他の産業との取引は多くない**。
- 漁港区域内には「**すつ浜直市場**」があるが、交流人口減、雇用不足等により休業状態にある。
- 令和4年度に観光戦略計画を策定し、「**港町ブランディング**」を基軸に、新たな経済循環「地域エコシステム」モデルを確立することが提言されている。



### 【課題】

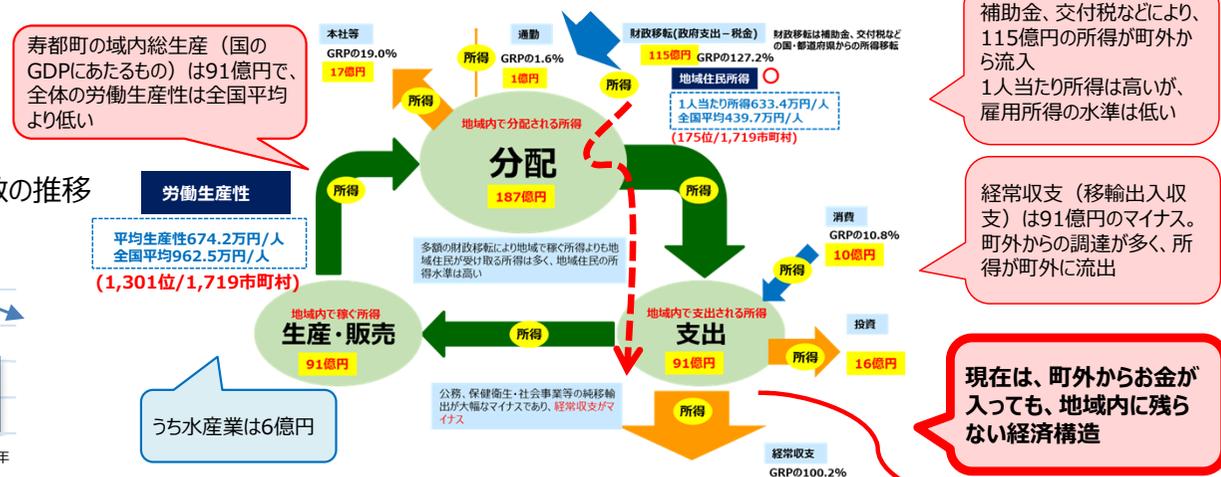
- 水産業、食料品製造業をはじめ、**港町寿都の強みや魅力を生かして域内での他産業との取引や消費を拡大し、水産業を基軸とした地域経済循環構造を構築**することで、**漁業者のみならず地域住民の所得向上を図る**。
- 取引拡大や消費拡大に当たっては、**休業中の「浜直市場」の活用や、漁港と港町エリアの近接性、ニセコエリアとの連携**など、既存の地域資源や地域特性を効果的に活用する。
- 町民の海業とのかかわり（雇用や参加）を通して、**町民の健康づくり**にも貢献し、域外流出が大きい医療費等の支出を削減し（**ウェルビーイングの推進**）、他の消費・投資に振り向ける。
- 観光戦略計画における「**港町ブランディング**」のコンセプトや取り組みと一体的に**海業振興を図る**。

### ■ 漁港全体図

出所) 寿都地区直轄特定漁港漁場整備事業 完了後の評価 (事後評価) 結果準備書説明資料 (令和4年度北海道開発局) に加工



### ■ 寿都町の所得循環構造



### ■ 寿都町の漁業者数の推移

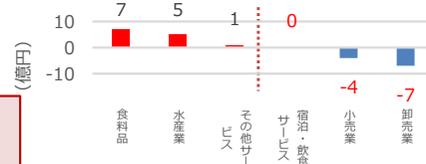


### ■ 寿都町の漁業者の年齢構成

※75歳以上割合は道平均よりも14%高い

	就業者数	65歳以上割合	75歳以上割合
北海道	24,378	26.8%	8.9%
寿都町	138	30.4%	14.0%

### ■ 寿都町の産業別純移輸出額 (經常収支の内訳)



## 2. 検討体制

### 寿都観光戦略計画検証委員会

連携 寿都町観光戦略計画の策定・実証

### 寿都町海業振興検討会議

寿都町、寿都町漁業協同組合、一般社団法人寿都観光物産協会、株式会社寿都振興興社、寿都商工会

寿都町海業振興計画の策定

